

○頻 ……しきりに。しばしば。回数が多いさま。

○照耀…明らかにかがやく。照りかがやく。

『漢語大詞典』では「亦作「照耀」「照曜」。強烈的光線映写」とあり、『淮南子』『本経訓』の「焜昱錯眩、照耀輝煌」の用例、および李白の「夢游天姥吟留別」の「青冥浩蕩不見底、日月照耀金銀臺」の句を引く。

▼ここでは、寛平三年（八九一年）式部少輔に次いで、同年蔵人頭、左中弁、左京大夫、翌年寛平四年（八九二年）式部大輔、左大弁勘解由長官、春宮亮参議というように著しい昇進をした事を指す。

162 ○組珮…「組帯」と「珮玉」のこと。高位・高官の人が身におびるもの。「組」は「ひも・組みひも・冠や印などにつける綬・ひもの類」。「珮」は「おびだま、腰に下げる玉。玉珮（玉製のおびもの、おびだま）」の意。

『漢語大詞典』には「亦作「組佩」。組帯及玉珮。古代官員的習用服飾」と説明し、『梁書』『陣慶之伝論』の「慶之警悟、早侍高祖既預舊恩、加之謹肅、蟬冕組佩、亦一世之榮矣」の用例、および白居易「東都冬日会諸同年宴鄭家林亭詩」の「賓階紛組佩、妓席儼花鈿」の句を引く。

○榮纏…まといめぐらす、またまつわりめぐる。

163 ○責重…重い責任。

○千鈞…きわめて重い目方。また、そのもの。転じて価値が非常に高いこと。「一鈞」は、「三十斤」、「千鈞」は「三万斤」。「鈞」は重さの単位で、「銖」・「両」・「斤」・「鈞」・「石」の順に重くなる。

『列子』『仲耳』に「髮引千鈞」の用例が、また韓愈「與孟尚書書」にて「一髮引千鈞」の用例が見